

機織り石

常陸大宮市

昔、西塩子村(現・常陸大宮市西塩子)のある農家に、美しい娘がおりました。

両親は、気立てが良く働き者の娘が自慢で「おまえは本当にきれいだよ。きっと良いお嫁さんになって幸せに暮らせるよ」と口癖のように言っていました。

娘は年ごとに美しくなり、近隣の村の若者たちの間でも大変な評判になりました。若者の中には、娘の顔が見たいと昼夜かまわず家にやってくる者もあって、両親はとても仕事になりません。そこで、「若者たちから見えない家の中で機織りをさせよう」と、娘を家の中に閉じ込めてしまいました。しかし、若者たちは家の中から聞こえる機織りの音に気づき、また家にやってくるようになりました。



心が休まらない日々、両親も困り果ててしまいました。「音が聞こえない石倉の中で機織りをさせれば、誰も近づけないのになあ」と口には出してみたものの、石倉を建てるお金などありません。両親は毎日のように村の神社に足を運び「神さま、石倉をめぐんでください」とお祈りを続けました。

ある日、両親がいつものように畑で仕事をしていたときのことです。急に黒い雲がわきおこりあたりが暗くなると、稲妻が光り自分の家の方角で激しい雷が落ちました。

両親が慌てて家に戻ると、家は跡形もなく、娘の姿もありません。家のあった場所には、大きな石が一つあるだけでした。娘を探しながら、石のそばまで行くと、機織りの音が聞こえます。

石に耳を当てると、その音は石の中から聞こえてくるではありませんか。娘は石に閉じ込められてしまったのです。娘の幸せも考えず、「石倉がほしい」という勝手なお願いをしたために、娘は石の中で機織りをするようになってしまったのです。

この石は、今でも西塩子の田んぼの中にあり、石に耳をあてると、機を織っているような音が聞こえます。いつしか村人たちは、この石を「機織り石」と呼ぶようになったということです。

〈参考文献〉茨城の伝説(茨城民俗学会)、常陸大宮市観光ガイド 第一話「機織り石」

【常陸大宮市MAP】



「運ぶ」を支え、環境と未来をひろく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>